

環境コンサート今年も開催します

MELON では、恒例となった環境コンサートを今年も Zepp Sendai で開催します。Zepp Sendai はご存知のとおり、会場で使われる全ての電力を風力発電からまかなっているエコな会場です。

コンサートの企画には、より多くの方の意見を取り入れて実現できるように、例年実行委員会の形式をとっています。メンバーは MELON スタッフとボランティアスタッフで構成されており、8月7日（木）に今年度の第1回目となる実行委員会を開催しました。

音楽を聴くことを目的にコンサートにやってきた人に、MELON のことを知ってエコな心を持

ち帰ってもらうことを目標に実行委員会ではさまざまなアイデアを練っています。今年はどうなコンサートになるかどうぞお楽しみに！

開催は 12 月上旬、広報開始は 10 月中旬を目標に準備を進めておりますので、日時や出演者を含め、詳細は 10 月中旬以降に MELON の Web-Site をご覧になるか、事務局までお問い合わせください。



< 青い国 > は青いままで

高速道路を撤去し、ソウルの地下に埋めてしまった川を市民の憩いの場へと戻し、ヒートアイランドを和らげたことから人々の人気を得て当選した大統領が、今度はアメリカからの牛肉輸入問題で人々の反感を買いました。ゴミの分別も積極的になってきたし、わたしたちの隣の国、韓国は環境問題への関心を高めています。

その韓国の馬山市でこの7月末から始まった 2008 年世界環境演劇祭に招待され、MELON の市民講座などで上演された拙作「DANDAN おんだんか」を上演してきました。会場ではお芝居が大うけしていたのですが、一般には温暖化問題への意識はこれからのような気がします。その意味ではこのお芝居を上演したことの意義はあったのでしょうか。

さて、それでは、チョン ヨンミ 文と絵、あらきみほ 訳「チュウ太郎の青い国」（蝸牛社 1996 年）を読んでみましょう。いちめん灰色の空。「ここにいたら、みんな病気になってしまふ。」チュウ太郎は青い空をさがしに行くことにしました。どうも、白い鳥が青い空の< 青い国 >

へ行く道を知っているのだそうです。チュウ太郎は白い鳥に乗って< 青い国 > にたどり着き、青い空気と、青い水と花のタネをもって帰り、< 灰色の国 > を< 青い国 > にかえました。

国の経済が発展していく中で、韓国も日本と同じように工業地域や大都市など公害問題が発生し、人々が苦しみ、またその苦しみを絶つための反対運動も起きました。また動植物のゆたかな生息地である湿地帯の埋め立てを何とかしようとの自然保護の運動やレジ袋の有料化などリサイクルの機運も高まってきています。私たちは政治やドラマの他にも韓国の人たちと話し合うことがたくさんありそうです。

